

## 理工学部 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究レポート	DP 1～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	理工学部	個々の教員が評価を行い、結果を理工学部で集約、教務委員会や各学科コースにおいて授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	定期試験・レポート課題等	DP 1～3 CP 1～3	各セメスター 毎に1回以上	全学年	各教科・科目ごとに習得した内容を調査する試験やレポート課題	理工学部	学生一人ひとりの学習内容と理解度を調査するための試験・レポート課題等を科目ごとに実施し、成績評価に活用、学科の教員が所属学生の全科目の成績を共有し、学修指導等に活用
3	学部長会談	DP 1～3 CP 1～3	毎年1回	学生代表者(理工学部学生自治会)	学修行動、授業・カリキュラム満足度学生生活に関する要望等	理工学部	理工学部で実施後、【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】を学科長会議で共有、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用、【学生生活に関する要望】を学生センターで内容を精査、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用

4	成績不振学生、休退学の調査	CP 1～3	毎学期1回 (成績不振)、 随時(休退学)	全学年	学業不振の状況(GPA、 修得単位数、留年者 数)、休学者数、退学者 数	理工学部	理工学部学生に対する面談を実施、修学及び学修 支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に 活用
5	GPS- Academic	CP 1～3 AP 1～4	毎年	1年生 3年生	GPS-Academic ベネッセ i-キャリアに よる学生の思考力・姿勢 態度・経験及び意識調査	理工学部	入学時と3年次において Web 受信してもらい、結 果を学生個人に通知するとともに、統計資料や個人 データを学部として学生の修学指導や進路指導に 活用
6	入学試験	AP 1～4	毎年	入学志 願者	各種入学試験	理工学部	理工学部における学修に必要な基礎学力の調査、 並びに、当該学科コースの教育内容に関する意欲・ 態度・語学力等の確認、入学後の学修指導に活用
7	英語プレイ スメントテスト	AP 1～4	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	理工学部	理工学部生の入学時点での英語習熟度を把握、習 熟度別語学教育のクラス分けに活用

以 上

令和8年4月1日

理工学部 理学科数学コース アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP4	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	数学コース	個々の教員が評価を行い、結果を数学コースで集約し、数学コースの授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	成績不振学生、休退学の調査	CP1～6	每学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	数学コース	数学コース学生に対する面談を実施、修学及び学修支援、数学コースのカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	修得単位の少ない学生への指導	CP1～6	随時	全学年	学修や学生生活の状況、出席状況	数学コース	該当学生に面談を実施、継続的な学修支援、履修指導に活用
4	成績評価	CP1～6	每学期末	全学年	小テスト・定期試験・課題評価	各教員	各科目ごとに学修成果・CPに基づきDPの達成度を評価、教育活動の改善に活用

		DP1 ～4					
5	入学試験	AP1 ～5	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎 学力	入学セン ター	数学コースへの入学者の現状把握及び教育指導に 活用
6	GPS-Academic (1年次)	AP1 ～5	毎年 4～5 月頃	1年生	本学への満足度、入学前の 学習状況、海外留学の意 識、卒業後の進路	IR・教育 支援セン ター	数学コース1年生を対象とする導入教育に活用
7	英語プレイス メントテスト	AP1 ～5	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	理工学部	入学時点の英語習熟度を把握、習熟度別語学教育 のクラス分けに活用

以 上

令和8年4月1日

理工学部 理学科物理学コース アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究レポート	DP 1~4	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究の学修成果	物理学コース	コースとして卒研発表会を実施する。その評価は個々の教員が行う。卒業論文はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
2	卒研中間発表会	DP 1~4	10月頃	卒業学年	卒業研究の中間報告	物理学コース	コースとして卒研中間発表会を実施する。結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
3	成績不振学生、休退学の調査	CP 1~4	每学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	物理学コース	成績不振学生に対する面談を実施し修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
4	教養科目・外国語科目	CP 1,2	毎学期末	第1-3学年	教養科目・外国語科目の基礎的な知識を問う。	物理学コース	試験やレポートなどの成績を総合的に評価し、各セメスター終了の後、各科目の評価点を個人に通

	の成績評価						知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
5	専門講義科目(必修)の成績評価	CP 3,4	毎学期末	全学年	専門科目の基礎的な知識や論理的思考力を問う。	物理学コース	試験やレポートなどの成績を総合的に評価し、各セメスター終了の後、各科目の評価点を個人に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
6	専門講義科目(選択)の成績評価	CP 3,4	毎学期末	全学年	専門科目の基礎的な知識や論理的思考力を問う。	物理学コース	試験やレポートなどの成績を総合的に評価し、各セメスター終了の後、各科目の評価点を個人に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
7	解法科目の成績評価	CP 4.2	毎学期末	全学年	演習問題を解くことで、物理学の方法論を習得する。	物理学コース	試験やレポートなどの成績を総合的に評価し、各セメスター終了の後、各科目の評価点を個人に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
8	実験科目の成績評価	CP 4.1	授業期間中	第1-3学年	科学的方法に基づいて現象を分析し、課題を解決できる能力や、それらを論文にまとめる能力を育成する。	物理学コース	レポート執筆能力の到達に関しては、教員が丁寧に添削し、より良い報告書に仕上げることがを目指す。その到達度は点数化のうえ、各セメスター終了の後、個人に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
9	計算機実習科目の成績評価	CP 4.3	授業期間中	第1-3学年	コンピュータの使い方や仕組み、プログラミングの基本的概念や作成方法、数値計算のアルゴリズムなどを学ぶ。これにより、物理学の方法論を数値解析や数値シミュレーションを通じて身につける。	物理学コース	コンピュータやプログラミングに関する課題により評価。その到達度は点数化のうえ、各セメスター終了の後、個人宛に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
10	卒業研究ゼミナールの成績評価	CP 4.5	授業期間中	第3学年	未解明な課題を発見し、調査を行い、それを解決する一連の研究作業に必要なスキルを身につける。	物理学コース	各研究室での発表やレポートなどの成績を総合的に評価し、セメスター終了の後、個人宛に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
11	「近大ゼミ1、2」の成績評価	CP 4.5	授業期間中	第1学年	課題設定及び問題解決科目。自らのテーマについて能動的に研究する。研究を通じて創造や真理探求とは何かを学び、実践的で創造的な思考力、他人に平易に	物理学コース	自発的に課題を発見する能力、数理的思考力、読解力、文章作成能力、他人に平易に説明し議論できる能力などを総合的に勘案し、各セメスター終了の後、評価点を個人宛に通知。成績結果はコースで集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。

					説明し、議論できる能力を育成。		
12	入学試験	AP 1~5	毎年	入学志願者	APを満たす資質のある学生を見出すために試験によって選抜。	物理学コース	成績結果はコースで集約し、入試問題の作成に活用。

以上

令和8年4月1日

理工学部 理学科化学コース アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	化学コース	個々の教員が評価を行い、結果を集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	成績不振学生、休退学学生の面談	CP	毎学期1回（成績不振）、随時（休退学）	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	化学コース	化学コースの学生に対する面談を実施、修学及び学修支援、自コースのカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	中間発表会	DP1～3	毎年度途中	卒業学年	卒業研究等の学修成果	化学コース	個々の教員が評価を行い、結果を集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
4	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	理工学部	入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用
5	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	入学センター	入学センターからの情報を学科で把握し、入学試験やAPの改善、入学者の現状把握に活用

以 上

令和8年4月1日

理工学部 生命科学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP 1～3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	生命科学科 (学科会議)	個々の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、学生のDPの到達度の他、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回(成績不振)、随時(休退学)	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、留年者数)、休学者数、退学者数	生命科学科 (学科会議、担任会議)	各学年担任が担当学年の学生に対して面談を実施し、修学状況及び学修支援の把握に努めるまた、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価にも活用
3	定例意見交換会	CP/ DP 1～3	毎月1回	全学年	学修行動、学生生活に関する要望等	生命科学科	会議実施後に議事録を作成その内容と「全国学生調査(2年次)」や「卒業アンケート」をもとに、学科内で授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
4	英語プレイ	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	理工学部	入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学

	スメントテスト						教育のクラス分けに活用
5	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	入学センター	入学センターからの情報を学科で把握し、入学試験や AP の改善、入学者の現状把握に活用

以上

令和8年4月1日

理工学部 応用化学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	達成度自己診断表	DP1-8/ CP	第1 - 8 セメスタ ー	1 - 4 年生	各学生が履修した科目に関する得点を入力し、その反省点を記録することで、自己評価と学修の振り返りを行う。	応用化学科	「マイキャンパスプラン」と連動して、個々の教員が学生の学修状況を評価・コメントし、その結果に基づいて学年担任及び準担任による履修指導を実施する。
2	座談会アンケート	DP1,2,5, 6,7/ CP	第2, 4, 6 セメス ター	1 - 3 年生	1~3年生合同で実施される座談会において、「現在の教育プログラムへの要望」、「1年間で力を入れたいこと」、「将来の進路」などに関するアンケートを行い、学生の意識と要望を把握する。	応用化学科	学生へのアンケート結果を集約し、今後のカリキュラム・ポリシーの改善に役立てる。
3	各セメスタ ーの成績評	DP1-8/ CP	第2 - 6 セメスタ	1 - 3 年生	各セメスタの初めに、成績が所定の基準に達しない	応用化学科	特別履修登録指導は、各学年担任と準担任により実施され、個別の履修指導が行われ

	価を踏まえた特別履修指導	CP	—		学生に特別履修指導を行う。		る。その内容は UNIPA のスチューデントプロフィールに記録され、学科内で情報共有される。
4	卒業研究・卒業論文ルーブリック	DP1,5,8 / CP	第7・8 Semester	4年生	卒業論文・卒業研究の成果については、ルーブリックを用いて多面的に評価する。	応用化学科	教員が個別に行う評価は、カリキュラム・ポリシーの改善及び学科の自己点検・評価活動に活用される。
5	卒業研究発表会における外部評価委員の評価	DP5,7,8	第8 Semester	4年生	応用化学科の卒業研究発表会において、外部評価委員を招聘し、各発表に対して評価を行うことで、教育の客観的な質保証を図る。	応用化学科	卒業研究発表会では、外部評価委員による評価を取り入れ、応用化学科の教育プログラムが社会に通用する人材を育成できているかどうかの検証に役立てる。
6	OB・上司アンケート	DP1-8	JABEE 審査時	卒業生	応用化学科の卒業生及びその就職先企業の上司を対象に、卒業生の資質や職務遂行能力についてアンケートを実施し、教育成果を外部からも評価する。	応用化学科	応用化学科の卒業生及びその就職先の上司を対象としたアンケート結果をもとに、カリキュラムの継続的な改善を行う。
7	学修振り返りアンケート	CP	第1 - 8 Semester	1 - 4年生	学修行動や授業の理解度、学生の講義に対する満足度を学生の視点から評価する。	IR・教育支援センター	各授業担当教員が、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。
8	授業の出席調査	CP	第1 - 8 Semester	1 - 4年生	授業開始後2~3回目、及び7~8回目の時点で、Slackを活用し、学生の欠席回数などを教員間で共有する。	応用化学科	学生の修学状況に関する情報を教員間で共有し、授業の欠席回数などに基づいて、学修不振と判断された学生には準担任による支援を行う。
9	総合テスト	CP	第6 Semester	3年生	物理化学、無機化学、有機化学分野において、1~3年次の学修内容の総復習となるテストを実施し、理解度を評価する。	応用化学科	物理化学、無機化学、有機化学などの各分野において実施される習熟度テストの結果をもとに、学生の理解度を評価し、「卒業研究」における適切な研究室配属に反映させる。
10	入試区分別留年数・特別履修指導率・入試区分別良好率	CP/ AP	第2 Semester	1年生	入試区分ごとに留年者数や特別履修指導対象者の割合を算出し、学科会議にて第1学年担任がその結果を報告・分析し、改善策を議論す	応用化学科	学科会議において、1年生学年担任より入試区分別の成績不振者に関する分析結果が報告され、それをもとにアドミッション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの改善を図る。

					る。		
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力を把握するため、各種評価を実施する。	入学センター	入学センターから提供される情報を基に、学科内で入学試験や AP (アドミッション・ポリシー) 改善、入学者の傾向把握を行い、今後の教育方針に反映させる。
12	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1 年生	大学での学修に必要な基礎的英語力を把握するため、TOEIC Bridge テストを実施し、その結果を分析する。	理工学部	入学時に実施される英語習熟度テストの結果は、習熟度別クラス編成など、語学教育の個別化に活用される。
13	JABEE 説明会アンケート	AP	第 1 セメスター	1 年生	JABEE 説明会を通じて、「重要だと感じる学修・教育到達目標」や「大学を選ぶ上で重視する点」、「応用化学科を選んだ理由」について、学生にアンケート調査を実施する。	応用化学科	アンケート結果を通じて、応用化学科への入学者の資質・能力を把握し、アドミッション・ポリシーの見直し、今後の教育方針に反映させる。
14	1 年生の必修科目の合格率年次変化の調査	AP	第 1 セメスター	1 年生	第 1 セメスターにおける 1 年生の必修科目の成績を集計し、合格率を算出することで、基礎学力の定着状況を把握する。	応用化学科	第 1 セメスターの必修科目における合格率を 1 年生担任が集計し、その結果をアドミッション・ポリシーの点検及びカリキュラムの改善に活用する。

以 上

令和8年4月1日

理工学部 機械工学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～3	毎年度末	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	学科（全員）	個々の教員及び各分野の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、授業方法やカリキュラム改善に活用
2	落単率	CP	毎半期末	全学年	各科目の落単率を調査	学科（教務委員）	落単率を学科教員に共有することにより、授業方法やカリキュラム改善などに活用
3	成績根拠資料の回収	CP	毎半期末	全学年	成績根拠資料（合格最低点に近い点数での合格の答案など）	学科（WG01）	学科の担当者が成績根拠資料を回収し、シラバス通りで実施されているかなどを確認し、授業方法やカリキュラム改善などに活用
4	外部評価委員会	AP, CP, DP1～3	不定期	全学年	外部評価委員会にてポリシー、カリキュラム、学科組織などの点検	学科（WG03）	ポリシー、カリキュラム、学科組織などを変更した場合には、外部評価委員会でご意見を頂き、ポリシーの改定に活用
6	卒業判定	DP1～3	毎年度末	卒業学年	卒業単位数の確認	学科（教務委員）	全卒業生が所定の単位を取得していることを確認し、授業方法やカリキュラム改善などに活用

7	チューター面談	CP	毎半期末	全学年	チューター面談	学科（全員）	毎学期末にチューター面談を実施し、「チューター教員が、学生の学習状況を確認し、学習支援などのサポートを実施
8	留年生面談	CP	毎年度末	全学年	留年生面談	学科（全員）	毎年度末、学生及び保護者とチューター教員が面談を実施し、学生の単位習得状況、進級・卒業要件を確認し、学習支援などのサポートを実施
9	達成度試験	CP, DP2, 3	1 2 月頃	3 年生	機械工学専門科目等の達成度表試験	学科 (WG02)	3 年生を対象に機械工学科専門科目等の達成度評価試験を実施し、授業方法やカリキュラム改善などに活用
10	FE 模試	CP, DP2, 3	1 2 月頃	3 年生	FE (Fundamental Engineer) 模試	学科 (WG02)	3 年生を対象に FE (Fundamental Engineer) 模試を実施し、英語教育を含む授業方法やカリキュラム改善などに活用
11	在学生満足度アンケート	CP	不定期	全学年	在学生満足度アンケート	学科 (WG03)	在校生にカリキュラムなどの満足度を調査し、授業方法やカリキュラム改善などに活用
12	卒業生アンケート	CP	不定期	卒業生	卒業生アンケート	学科 (WG03)	卒業生に仕事で役立っている専門知識などを調査し、授業方法やカリキュラム改善などに活用
13	企業アンケート	CP, DP1 ~3	不定期	就職先の企業	企業アンケート	学科 (WG03)	卒業生が就職している企業に CP に掲げている教育の必要度を調査し、授業方法やカリキュラム改善などに活用
14	学修振り返りアンケート	CP, DP1 ~3	7 月, 1 月	全学年	学修振り返りアンケート	学部	学生の授業に対する予習復習、理解度を調査し、授業方法やカリキュラム改善などに活用
15	GPS-Academic	DP1 ~3	4 月	1 年生、3 年生	自己分析テスト	学部	卒業後のキャリア形成を念頭に、どのような意識で、どのように学び、どのように意識の変化があるのかを調査し客観的な評価を実施する。

以 上

## 理工学部 電気電子通信工学科 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができるか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究ルーブリック評価	DP1,3	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	電気電子工学科	個々の教員が評価を行い、結果を学部等で集約し、各学部等の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	毎年1～3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	IR・教育支援センター	IR・教育支援センターが教学運営会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	キャリアセンター	キャリアセンターが各学部等に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	卒業生調査	DP1～3	毎年1回	卒業後1年以上経過の卒業生	現在の就業状況、大学に対する満足度、大学で身についた能力、授業や教育プログラムへの意見・要望	IR・教育支援センター	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
5	就職先アンケート	DP1～3	毎年1回	卒業生就職先 ※数名の採用実績がある企業	在籍する卒業生の活躍から、近畿大学のDP達成度や強み・弱みなどをアンケート聴取	IR・教育支援センター	IR・教育支援センターが各学部等並びに教学運営会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	学部長会談	CP/ DP1～3	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	理工学部	各学部で実施後に学生部で報告書を集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 IR・教育支援センターに連携し、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用

							【学生生活に関する要望】 学生部にて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
7	学科 J A B E Eプログラム (G E E P) 修了判定	DP1～ 3	毎年度末	卒業学年	学科 J A B E Eプログラムが 設定した学習・教育到達目標 を達成及びG P A評価	電気電子工 学科	学科担当者が評価を行い、結果を学科会議で報告し、カリキュラムの改善並びに自己点検・評価に活用
8	学修振り返り アンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、満足度	IR・教育支 援センター	IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ、各学部が自学部実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
9	成績不振学 生、休退学の 調査	CP	毎学期1回 (成績不 振)、 随時(休退 学)	全学年	学業不振の状況(GPA、修得 単位数、留年者数)、休学者 数、退学者数	理工学部	各学部が自学部学生に対する面談を実施し、学修及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
10	リフレクショ ンシート	CP	毎学期1回	2～4年生	学科が定めた学習・教育到達 目標の各項目に対する達成確 認及びG P A評価	電気電子工 学科	学科が用意した評価表を用いて学生が評価を行い、学科が定めた学習・教育到達目標の各項目を達成したかどうか、及び目標ごとのGPA評価を各自で確認する方法により、自主的・継続的な学習を促す
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学 力	入学センタ ー	入学センターが大学協議会や各学部等に報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4～5 月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学 習状況、海外留学の意識、卒 業後の進路	IR・教育支 援センター	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が各学部等に報告し、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
13	英語プレイス メントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	理工学部	各学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用
14	入学前準備教 育	AP	毎年	入学志願者	数学・物理に関する事前学習	理工学部	学部が主に推薦で入学した学生を対象に用意した高校レベルの問題を学生が解答し、その結果を採点して返却する方法により、学生は大学で学ぶために必要となる知識を習得

以 上

令和8年4月1日

理工学部 社会環境工学科 アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業研究ルーブリック	DP (C) (D) (F) (H) (I) (J) /CP	毎年度 末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	社会環境工学科	個々の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	総合演習 I ルーブリック	DP (A) (C) (G) (I) (K)	毎年 前 期末	2 学年	グループワークでの調査ノート、発表の成果を DP に沿って評価。	社会環境工学科	非常勤講師含め 6 名の教員が、評価を行い、結果を集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用

		/CP					
3	外部評価委員による卒業研究の評価・外部点検会議	DP DP(A) ~(K) )/CP	毎年 卒業研究発表時	卒業学年	卒業研究発表会では、専門知識・能力の達成のみならず、社会が求める技術者としての知識・能力についてその達成度を外部評価委員により点検・確認している。また、当学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム内容についての意見を頂く。	社会環境 工学科	外部評価委員10名程度から、各学生のディプロマ・ポリシーの達成度及びカリキュラム内容等についての意見を頂き、教育方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
4	達成度評価シートへの記入及び面談	DP(A) ~(K) )	2年前期、3年後期、卒業時	2, 3, 4年	学生自ら、ディプロマ・ポリシーの達成度の自己点検を行い、それを基に教員と面談し、達成度を確認する。	社会環境 工学科	学生が自分で、達成度を評価し、それを教員と面談することで、今後の授業への取り組みについて考えてもらう。
5	成績不振学生、休退学の調査	CP	每学期1回(成績不振)、随時(休学、退学)	全学年	学業不振の状況(GPA、修得単位数、留年者数)、休学者数、退学者数	社会環境 工学科	学生に対する面談を実施、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
6	GPS-Academic(3年次を基本)	CP	毎年1回	3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	IR・教育 支援センター	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が各学部等に報告し、全学的なキャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
7	学修振り返りアンケート	CP	每学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、満足度	IR・教育 支援センター	社会環境工学科実施分の結果を集計し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。 IR・教育支援センターが全学部分の結果をとりまとめ
9	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	入学センター	学センターが大学協議会や各学部等に報告し、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
10	GPS-Academic(1・3年次)	AP	毎年4月	1・3年	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	IR・教育 支援センター	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者が各学部等に報告し、入学時点の汎用的能力の把握、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用

11	英語プレイ メンステス テスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge テスト	理工学部	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別 語学教育のクラス分けに活用

以 上

令和8年4月1日

理工学部 エネルギー物質学科 アセスメントプラン

### アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができるか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

### アセスメントの方法

No	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1 ～3	毎年末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	エネルギー物質学科	個々の教員が自学科学生の評価を行い、結果を学科で集約、学科会議やWG会議において授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	成績不振学生、休退学の調査	CP1 ～3	毎学期2回 (成績不振)、随時 (休退学)	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	エネルギー物質学科	準担任の教員が成績不振学生に対して面談を行い、修学及び学修支援、自学科のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	教育システムWG(自学科で組織)	CP1 ～3/ DP1	毎学期2回	全学年	教育システムの調査、改定等	エネルギー物質学科	教育システムWGが自学科における教育システムを評価し、必要に応じて改定内容を策定、教育プログラムWGから依頼された教育システム改定

		～3					を検討
4	教育プログラムWG(自学科で組織)	CP1 ～3/ DP1 ～3	毎学期2回、必要に応じて不定期開催	全学年	教育プログラムの調査、改定等	エネルギー物質学科	教育プログラムWGが自学科における教育プログラムを評価し、必要に応じて改定内容を策定、教育システムへシステム策定を依頼
5	教育点検評価WG(自学科で組織)	CP1 ～3/ DP1 ～3	毎年度末等	全学年	教育システム及び教育プログラムの点検評価、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する点検評価等	エネルギー物質学科	教育点検評価WGが自学科における入試種別と学修成績、就学態度の関連性を評価し、アドミッションポリシーの評価及び入試判定の資料として活用、学科内WGと共有し教育システムやカリキュラム、自己点検評価に活用
6	卒業アンケート	DP1 ～3	毎年1回	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、学科の満足度	エネルギー物質学科	教育点検評価WGが実施し、結果を学科会議で共有、学科のカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用
7	卒業研究計画書・中間発表会	CP1 ～3/ DP1 ～3	毎年1回	卒業学年	卒業研究の学修成果	エネルギー物質学科	教育システムWGが実施し、結果を学科で集約、学科会議やWG会議において授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
8	達成度自己診断シート(自学科で作成)	CP1 ～3/ DP1 ～3	毎年1回	全学年	履修状況、DPの達成度	エネルギー物質学科	教育システムWGが全学年の学生に対して実施し、個々の学生及び準担任が自身の履修状況、DPの達成度の確認に活用
9	入試判定評価	AP	毎年1回	全学年	入試種別と学修成績の関連	エネルギー物質学科	教育点検評価WGが自学科学生の評価を行い、自学科における入試種別と学修成績、就学態度の関連性を評価し、アドミッションポリシーの評価及び入試判定の資料として活用
10	英語プレイスメントテスト	AP	毎年1回	1年生	TOEIC Bridge テストの実施	理工学部	習熟度別クラス編成など、語学教育の効率化に活用

以上